



第5号

## 里山基本計画の策定に向けた

# 里山活動を考えるワークショップ ニュース

みなさんこんにちは！ 早いもので今年も残りわずかとなってきました。さて、9月からスタートした「里山活動を考えるワークショップ」ですが、11月22日に第3回ワークショップを開催しました。今回は、第2回の「里山の保全・活用策を考えよう！」の成果を踏まえつつ、「里山活動拠点施設とそれを利用する活動について考えよう！」というテーマで話し合いをしていただきました。

## 第3回ワークショップ「里山活動拠点施設とそれを利用する活動について考えよう！」

- 日時：平成30年11月22日（木曜日）午後7時から9時
- 場所：平成こども塾 丸太の家
- 参加者：24名
- プログラム：



### (1)開会

- ・今回のプログラムの説明

### (2)前回の振り返りと今回検討する前提条件

- ・前回ワークショップの結果から、以下に記す4つの活動プロジェクトについて解説しました。あわせて、コンセプト案や活動拠点を考える対象地域案を説明しました。

- |              |                    |
|--------------|--------------------|
| ①里山散策路づくり    | ②里山暮らしを伝える・体験の場づくり |
| ③里山プレーパークづくり | ④里山風景づくり           |

### (3)活動拠点のアイデアの検討(グループワーク)

- ・4つの活動プロジェクトごとにグループに分かれ、プロジェクトを実施・展開していく上で、どこに、どのような環境を整えるべきか、活動拠点施設として必要な機能は何かを話し合いました。
- ・屋内の里山活動拠点施設（体験、学習、交流、休憩、トイレ、管理事務、情報提供、倉庫など）と屋外での活動・体験フィールド（谷津田（水田）、畑、湿地、ため池、里山林、竹林、小川・水路など）に分けながら、活動に必要な機能・施設は何かを考えました。

### (4)発表

- ・グループごとに話し合いの内容を発表していただきました。

### (5)まとめ

- ・全体でのまとめを行い、次回以降のご案内をしました。

### ■おまけ

- ・寒い季節となってしまったので、参加者にはホカホカの焼き芋が振る舞われました。

（ご準備いただいた、平成こども塾サポート隊の皆さまありがとうございました。）

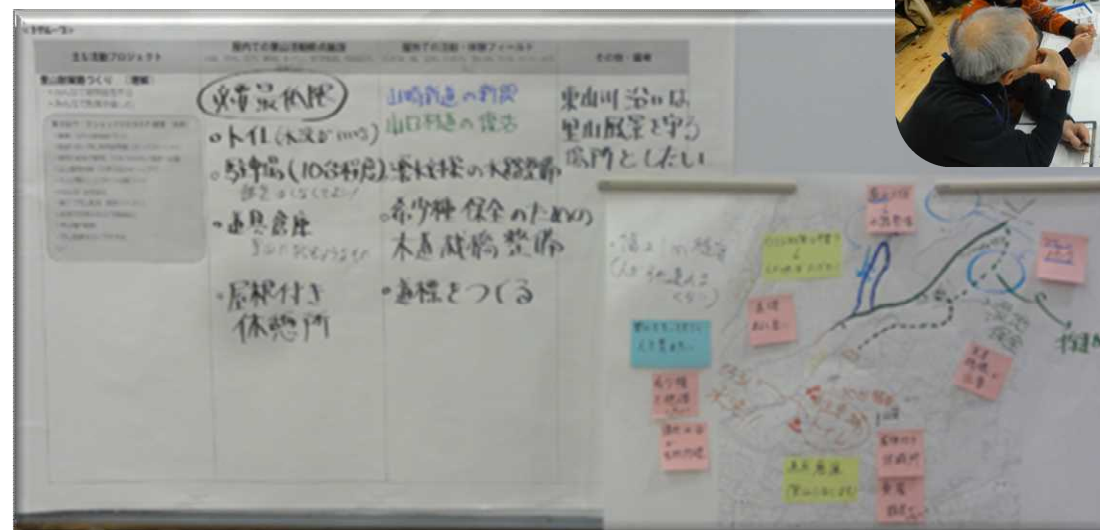


## 各グループの話し合いの成果

### ①里山散策路づくり

旧山口村道（公道）を中心にそこから尾根を歩いて下りてくる散策路をつくる、そして、将来的にはさらに旧山口村道を東に延伸していくことという考えに整理されました。ただし、垂炭鉱跡があるという話もあるので、その点に注意しつつ整備を進めるというものでした。

また、活動を行うためには、10台分くらいの駐車場、トイレ、休憩用の四阿（あずまや）、活動する人達のための道具小屋などの整備が必要になるという意見となりました。



### ②里山暮らしを伝える・体験の場づくり

昭和30年代の里山の暮らしを体験する場所にしていこうを軸に話し合いをしました。

東山川を南から眺めたときの風景が美しいので、この谷津田（水田）を中心に田畑を保全し、あわせて眺望の先端となる尾根に小さな農家風の小屋（6帖2間と土間くらいの一軒家）をつくり、そこで、色々な体験を楽しめるようにするという意見に集約されました。

荷物を背負子で運ぶ、ゴカキ（枯れ草集め）をしてクドで湯を沸かしてお茶を入れるなど、昭和30年代の体験を織り交ぜていくといったアイデアが出されました。



### ③里山プレーパークづくり

プレーパークは、水田、湿地などの保全するところを明確にしながら、子どもが自然の中で自由に遊べる明るい場所に設置すること、自転車で行ってきた子どもたちが容易にアクセスできること、また障がい者の利用などを考慮し、**木望の森の西側の場所が望ましい**という意見が出ました。

**拠点施設**については、受付機能、トイレ、シャワー、屋内の体験施設等が必要という意見が出ましたが、**便利過ぎる施設にはしない**、不便さも体験すべきとの意見もありました。

また、プレーパークは**自己責任で自由に遊ぶ場所**であることから、**専門知識や経験を有するフリースターを配置**すること、**行政ではなく市民団体が運営すべき**との意見も出されました。



#### プレーパークとは・・・

従来型の公園と違い、禁止事項をできるだけ少なくし、自分の責任で自由に遊ぶことを基本とした子どもの遊び場である。子どもの安全の確保のために、プレーリーダーと呼ばれる指導員を置くこともある。地域住民やボランティアで自主運営している場合も多い。



### ④里山風景づくり

屋内の拠点施設としては、**道具置き場**、教室の様な**学びのスペース**、人と人が**交流できるスペース**、みんなの**活動を展示・紹介できるスペース**が必要という意見が出されました。屋内外共通の施設としては、作業スペースが必要で、できれば**交流機能を兼ねた作業スペース**になることが望ましいという意見でした。

屋外については、貴重な生物がたくさんあるので**PR用の立て札**や、夜間にしか活動しない生物もいるので宿泊のできる**キャンプスペース**があると良いといった意見でした。

このほかには、駐車場・駐輪場、屋外でのかまどのほか、若い世代を呼び込むための**“里山を使ったアート演出”**といった意見も寄せられました。



### ＜ワークショップ後のアンケートの主な意見＞

- 農作業が基本だと考える。里山は利用する使う場である。そのための整備を着実にすすめる。その先に湿地の保全、プレーパーク、体験の場は生まれてくるはずです。そのための拠点施設とすれば、おのずと作業のできる場になると思います。
- プレーパークに対する認識に参加グループ内で温度差があったが、今回のWSを通じてだいぶ共通理解が得られたと思う。
- 地元の方の想いが聞けて良かった。田んぼのある風景を守りたいという思いは一緒だった。
- 市の予算作成が必要です（里山づくりの）。
- 基本計画作成ができたよ！
- 活用のアイデアを出し合うことで「里山活動」の具体的なイメージができて来ました。今回もありがとうございました。焼き芋がとてもおいしかったです。ありがとうございました。ごちそうさまでした。
- 川遊びが自然にできる場所をつくってほしい。長久手らしいプレーパークをつくった方がよい！里山整備にはお金と知恵を出して活動は自由にできるようにしてほしい！
- 地権者の方、利用する対象者の方も参加を促すすめ方が必要と。
- プレーパーク構想が具体的にになってきてワクワクしてきました。
- 保全すべきところは守りつつ、多様な方が里山に親しむことができるような施設のアイデアがたくさん出ており、それらがうまく融合して実現可能な計画になると良いと思います。
- 各人の持っている里山イメージが少しずつ具体性をおびて来るように感じた。
- 4グループそれぞれすばらしい意見です。
- 場所が決まらないのに話し合うのはどうかと言われて、私も困ったのですが、夢は抱けました。
- すすめていくのに、時間がかかりすぎる。すすむキックオフ（kick-off）が何かないかな。
- グループ内での討議がいろいろできて良かった。
- 作業活動の必要施設はほぼ、各グループとも重複すると思いましたので、理想的なものを1つお願いしたいと思います。他に民間側ではできないものは補充できるように期待します。合宿里山研究室等、共用度の大きいものからの整備、計画立案しておいてほしい。
- 活動拠点の存在が様々な活動の可能性を広げることに繋がると今回のWSで見えてきました。可能性が広がることは楽しいです。
- 拠点施設について活動しやすくなるとうれしい。また、活動に参加する人を育てるために活用できる場となることを希望します。
- 毎回、色々な考え方や意見が出ますが、担い手である作業のできる人が少ないので、実現するには相当、時間、年月がかかりそう！また、実現させるための市の役割を明確にすべきだと感じます。

### 次回のご案内



◆**12月20日（木曜日）**午後7時から、平成こども塾丸太の家にて、**第4回ワークショップ**を開催します。拠点施設の整備、施設の管理・運営などについて話し合いたいと思います。みなさんのご参加をおねがいします！

【お問合わせ先】 長久手市みどりの推進課  
電話：0561-56-0552